

基本方針

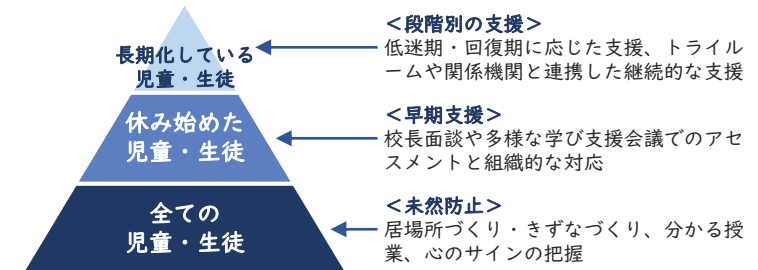
- ◆ 不登校はどの子どもにも起こりうるものとして捉え、一人ひとりに寄り添った支援を推進します。
- ◆ 人・学び・心を「つなぐ」多様な支援により、児童・生徒の社会的自立を後押しします。

方向性1 状態に応じた段階的な支援

不登校の状態（混乱期・低迷期・回復期）を踏まえ、「未然防止」「早期支援」「長期化への対応」の各段階で、組織的・計画的に支援します。

- | | | |
|-----|------------------------|-----|
| 取組1 | 「未然防止」の取組 | P12 |
| 取組2 | 「早期支援」の取組 | P15 |
| 取組3 | 「長期化している児童・生徒」の取組 | P17 |
| 取組4 | 日頃の児童・生徒理解と時期を捉えた適切な指導 | P19 |

■児童・生徒の状態別の支援のイメージ

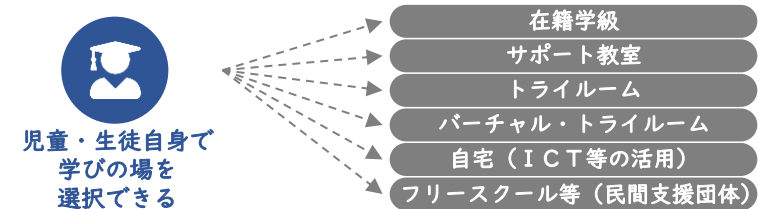


方向性2 多様な学び・育ちの場の確保

学校内、学校外の関係機関、家庭など、一人ひとりの状況に応じて、児童・生徒が安心して学び・育つことができる場を整えます。

- | | | |
|-----|----------------|-----|
| 取組5 | 学校内で学ぶ・育つ | P21 |
| 取組6 | 学校外の関係機関で学ぶ・育つ | P22 |
| 取組7 | 家庭で学ぶ・育つ | P26 |

■多様な学びの場の確保のイメージ

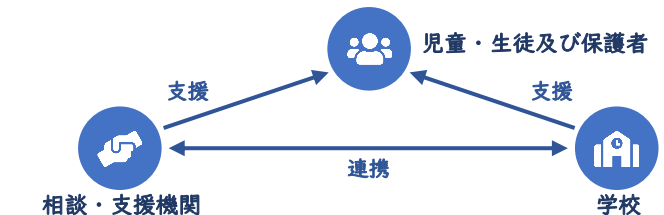


方向性3 学校外での学びの評価と民間施設等との連携

学校外の公的機関や、民間施設、ICT等での学習について、要件に基づき出席扱い・評価を行い、民間施設等と連携して支援します。

- | | | |
|------|------------------------|-----|
| 取組8 | 学校外の公的機関や民間施設における相談・指導 | P28 |
| 取組9 | ICT等を活用した学習活動 | P29 |
| 取組10 | 民間施設等と連携していく際の流れ | P31 |

■関係機関との連携のイメージ



方向性Ⅰ 状態に応じた段階的な支援

取組Ⅰ

「未然防止」の取組 (P12)

教職員による「居場所づくり」と、児童・生徒主体の「きずなづくり」、ユニバーサルデザインの視点に基づく授業改善により、不登校が生じない魅力ある学校・学級づくりを進めます。

取組Ⅱ

「早期支援」の取組 (P15)

欠席受付方法を工夫して欠席理由を明確にするとともに、連続7日以上欠席した場合は校長面談を実施するなど、学校と教育委員会が連携して欠席の長期化を防ぎます。

取組Ⅲ

「長期化している児童・生徒」の取組 (P17)

低迷期・回復期の段階に応じた支援を検討して、新しい学年に進級した際や中学校に進学した際の友達や先生との出会い、本人・保護者とのじっくりとした関わりを大切にします。会えない・連絡が取れない場合は、まず安否を確認します。

取組Ⅳ

日頃の児童・生徒理解と時期を捉えた適切な指導 (P19)

場面別の観察ポイントを活用して、入学・進級時や長期休業前後など時期を捉えて一人ひとりの様子を把握するとともに、小・中学校間の円滑な接続を図ります。

方向性Ⅱ 多様な学び・育ちの場の確保

取組Ⅴ

学校内で学ぶ・育つ (P21)

サポート教室への別室登校から部分的な教室復帰、本格的な教室復帰まで、本人の気持ちを確認しながらスモールステップで支援します。

取組Ⅵ

学校外の関係機関で学ぶ・育つ (P22)

トライルームや教育相談室、つくしんぼ、こども家庭センター等の関係機関を活用し、ゆっくりと外の世界とつなぎます。

取組Ⅶ

家庭で学ぶ・育つ (P26)

本人・保護者の状況や希望に合わせた家庭訪問など訪問型の支援により、担任とのつながりを保ち、安心できる場所からのスタートを支えます。

方向性Ⅲ

学校外での学習評価と民間施設等との連携

取組Ⅷ

学校外の公的機関や民間施設における相談・指導 (P28)

一定の要件を満たし校長が認める場合は指導要録上出席扱いとし、学習の計画や内容が適切な場合は学習評価に反映します。

取組Ⅸ

ICT等を活用した学習活動 (P29)

学習支援ソフト、バーチャル・トライルーム等を活用した自宅等での学習について、学習ログ等で状況を把握し、要件を満たす場合は出席扱い・学習評価に反映します。

取組Ⅹ

民間施設等と連携していく際の流れ (P31)

本人・保護者との相談、施設への聞き取り、校内での協議を経て校長が判断し、月別状況シートで教育委員会へ報告します。